

平成24年度決算の概要と、25年4～7月までの経営状況についてお知らせします。

不良債務額減少・事業収益が増加

今後も病院再建に向け、経営健全化を推進します

平成24年度決算の概要

平成24年度は、眼科医1名を増員したことで、複数の常勤医による診療体制を実現したことに加え、総合内科医の増員により医療体制の更なる充実を図りました。

患者数は、入院が9万1436人となり、前年度と比較して2638人の減となりました。病床利用率は一般病床で前年度と同水準となったものの、精神病床で前年度を大幅に下回り、病床全体では2ポイント減少の74.3%となりました。

外来においても、前年度に比べて5197人の減となりましたが、1人当たりの診療単価が上昇したことで外来収益などは前年度より増加し、病院事業収益全体では68億5千万円と、前年度に比べて2千万円の増収を達成することができました。

表1 平成24年度決算と前年度との比較増減

区分	平成24年度	平成23年度	比較増減	
病院事業収益	68億5千万円	68億3千万円	2千万円	
病院事業費用	69億3千万円	68億2千万円	1億1千万円	
単年度純損益	△7,600万円	1,400万円	△9千万円	
不良債務残高	4億6,400万円	4億6,800万円	△400万円	
患者数	入院	91,436人	94,074人	△2,638人
		250.5人/日	257.0人/日	△6.5人/日
	外来	188,347人	193,544人	△5,197人
		768.8人/日	793.2人/日	△24.4人/日
病床利用率	一般	76.4%	76.3%	0.1ポイント
	精神	64.5%	76.0%	△11.5ポイント
	全体	74.3%	76.3%	△2.0ポイント

一方、病院事業費用では、診療体制の充実に伴う医療スタッフの増員と、高額な医療機器購入による諸費用の増加で、前年度に比べて1億1千万円の増となりました。

この結果、最終的な決算は7600万円の赤字となりましたが、企業の資金繰りの悪化状態を表す不良債務の額は前年度より400万円減少し、

平成24年度の主な取り組み

【医療体制の整備】

●眼科・総合内科医に加え、看護師を増員

【医療の質と信頼の向上】

●日本医療機能評価機構による病院機能評価Vat:6.0の更新認定取得

●医療安全、接遇向上に関わる各種の取り組み推進

●人工透析装置や各種手術用器械、臨床検査機器などの計画的更新

【地域医療支援の充実】

●広域紋別病院企業団・八雲総合病院などと医師派遣契約を締結、江別・栗山医療連携会議の開催、他町村への医師派遣推進

●健康セミナー、糖尿

4億6400万円となりました(表1)。

【経営状況の改善】

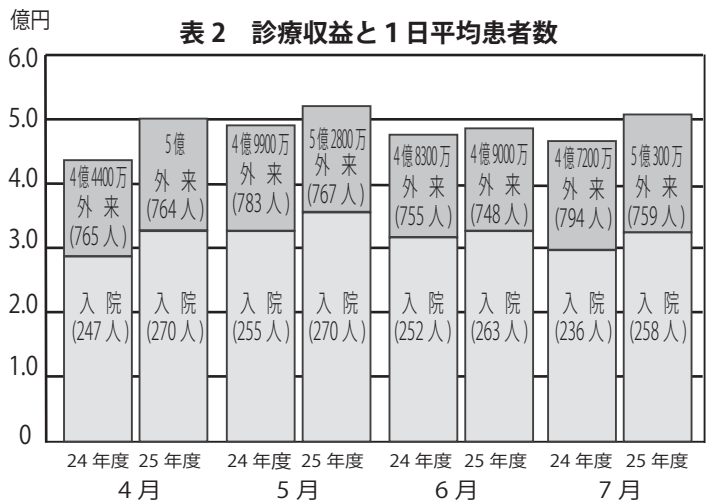
●各種検査、健(検)診、精神ケア、作業療法の推進

平成24年度はこれらの取り組みを実施しましたが、依然として費用が収益を上回る状況が続いていることから、今後も引き続き経営健全化の取り組みを推進していきます。

平成25年4～7月の状況

本年度は、作業療法士、放射線技師および助産師をそれぞれ1名増員するとともに、常勤の言語聴覚士を新たに配置しています。また、当院の看護師ががん化学療法や皮膚・排泄ケアに専門的知識を有する看護師に認定されるな

表2 診療収益と1日平均患者数



ど医療体制の充実を図っています。

経営面では、外来の患者数が前年度に比べて若干下回っているものの、入院患者数と合わせた全体の患者数では増加しており、診療収益も前年度を上回っている状況です(表2)。

今後も健全化計画に基づく各種取り組みを着実に進め、病院再建に向け職員一同一層努力し、市民の皆さんに信頼される地域の中核病院としての役割を果たしていきます。